療育研修会

| 赤十字病院の の筋ジストロ | | | |)小原先 ——— | 生は病 | 院にが | といて | 茨城 |
|--|---|--|---|--|--|--|---|--|
| の筋ジストロ | | | |)小原先 ——— | 生は病 | 院にが | いて | 茨城 |
| · | フィー患 | | | | | | | |
| · | - / 1 | | ミされても | こられる | > 1 DU | かし た | 主治 | |
| 生し ブレッスが | | | | | | /FIC\ | 工门 | |
| 更し (いる) | 第ジス 患者 | へ在宅療 | 養のケブ | アのため | に訪問 | 検診を | 行っ | てい |
| 坊間検診の内 | 一 | って、特に | 人工呼吸 | と器の管 | 理上の | 留意点 | と廃 | — 痰操 |
| 意点、そして | 日常の傾 | 康管理─ | 一般につい | いての講 | 演を頂 | き参考 | にな | った |
| _ | | | | | | | r | |
| | | | | | * | | | |
| | . " | ŧ | | | | | | |
| 仮器管理 とり | ノハビリに | ついて | · . | | 師 | <u>石井</u> | 正二 | · |
| 氐下による呼 | 巫機能の | 低下を管 | 7理、改善 | 針るこ | とは筋 | ゾスト | ロフ | ィー |
| つて重要に | はことであ | り、人工 | 呼吸器を | 使用し | ている | 患者に | も言 | える。 |
| 機能を低下さ | せないた | めの、い | わゆるリ | ハビリ | 効用に | ついて | その | 方法 |
| ご。また、四 | 吸機能の | 維持管理 | と大事な | ことは | 正しい | 姿勢の | 維持 | と内 |
| — と定性のある | 生活態度 | が大事な | ことを教 | ー たてい | ただいか | <u>د</u> | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 一 第一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 | 意点、そして <u>吸器管理とし</u> 低下による呵 とって重要は だ。また、呼 | 意点、そして日常の健 吸器管理とリハビリに 低下による呼吸機能の とって重要はことであ 機能を低下させないた だ。また、呼吸機能の | 意点、そして日常の健康管理- 吸器管理とリハビリについて 低下による呼吸機能の低下を管 とって重要はことであり、人工 機能を低下させないための、V だ。また、呼吸機能の維持管理 | 意点、そして日常の健康管理一般について 吸器管理とリハビリについて 低下による呼吸機能の低下を管理、改善 とって重要はことであり、人工呼吸器を 機能を低下させないための、いわゆるリ だ。また、呼吸機能の維持管理に大事な | 意点、そして日常の健康管理一般についての講 吸器管理とリハビリについて 講 低下による呼吸機能の低下を管理、改善するこ とって重要はことであり、人工呼吸器を使用し 機能を低下させないための、いわゆるリハビリ だ。また、呼吸機能の維持管理に大事なことは | 意点、そして日常の健康管理一般についての講演を頂 吸器管理とリハビリについて 講師 低下による呼吸機能の低下を管理、改善することは筋 とって重要はことであり、人工呼吸器を使用している。 機能を低下させないための、いわゆるリハビリ効用に だ。また、呼吸機能の維持管理に大事なことは正しい。 | 意点、そして日常の健康管理一般についての講演を頂き参考 吸器管理とリハビリについて 講師 石井 低下による呼吸機能の低下を管理、改善することは筋ジスト とって重要はことであり、人工呼吸器を使用している患者に 機能を低下させないための、いわゆるリハビリ効用について | 低下による呼吸機能の低下を管理、改善することは筋ジストロフとって重要はことであり、人工呼吸器を使用している患者にも言機能を低下させないための、いわゆるリハビリ効用についてそのだ。また、呼吸機能の維持管理に大事なことは正しい姿勢の維持 |

療育研修会実施状況 茨城支部 参加数 18

◆筋ジス患者の在宅医療の現状 テーマ 小原 克之 医師

◆呼吸器管理とリハビリについて 石井 正二 理学療法士

実施場所 茨城県総合福祉会館



実施を終えて(感想等)

参加者の感想等、必ず記入して下さい。

- ・病状が進行し、生活に全介助が必要となる筋ジストロフィー患者を家庭内で 介助することは大変なことであるが、小原先生に訪問検診を時折受けている 参加者からは先生の訪問検診によって精神的にも助かっている、との感謝の 言葉が聞かれた。また、やさしく療養生活の注意点を改めて教えていただき 今後の療育生活に張りを感じる、との言葉があった。
 - ・呼吸機能維持のための留意点や人工呼吸器の注意点や問題点のお話が聞けた ことや、人工呼吸器の知識を得たこともよかった。
 - ・次回の講習会にも期待する声が多かった。

療育研修会実施状況

茨城支部

参加数 18

テ ー マ ◆筋ジス患者の在宅医療の現状 講 師 ^{医師} 小原 克之 ◆呼吸器管理とリハビリについて理学療法士 石井 正二

実施場所 茨城県総合福祉会館



実施を終えて(感想等)

参加者の感想等、必ず記入して下さい。

- ・講習後の小原先生(写真左白シャツ)や講師・指導員を囲む話し合いでは 参加者からさまざまな意見や意見交換ができてよかったと思います。
- ・最近の筋ジストロフィー医療で遺伝子治療が現実化されようとしている 情報は患者に希望をもたせることにつながるように感じた。
- ・日筋協本部が打ち出している遺伝子登録についてはまだ理解不足のところが感じられたが、医師から協力する、との言葉があった。
- ・呼吸管理の大事さから日常の姿勢が大事なことを知ったことは良かった。
- ・みんなで問題を共有し、対策を考えることの大切さを知った。